

2013年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	電気通信工学科							
科目名	電子回路設計							
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	3年次前期			
必修・選択の別	必修科目(組込みシステムコース)/必修科目(電気エネルギーコース)/選択科目(情報システムコース)							
担当者	喜屋武 毅							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・電子回路の産業界における位置づけを説明できる。(B3,C2) ・演算増幅器のカタログの意味が分かる。(B3) ・演算増幅器使用時の留意点が分かる。(B3) ・電子回路の基本である比例・積分・微分回路の設計ができる。(B3) ・演算増幅器を用いた電圧源と電流源の設計ができる。(B3) 							
日程と内容	<p>04/08 導入授業(受動素子と能動素子)</p> <p>04/15 演算増幅器とカタログの詳細と使用時の留意点</p> <p>04/22 オペアンプの定格・電気特性</p> <p>04/29 増幅回路の設計法・スルーレート</p> <p>05/13 スルーレートと位相補償(演習1)</p> <p>05/20 周波数特性と位相補償</p> <p>05/27 利得と位相の関係</p> <p>06/03 演算増幅器を用いた回路設計</p> <p>06/10 差動増幅回路の設計法</p> <p>06/17 同相信号除去比(CMRR)について</p> <p>06/24 計装アンプの設計法(演習2)</p> <p>07/01 各種フィルタ回路(受動型フィルタ、能動型フィルタ)</p> <p>07/08 演算増幅器によるフィルタ回路の設計</p> <p>07/15 電圧源と電流源回路</p> <p>07/22 定電流源回路の設計(演習3)</p> <p>07/29 定期試験</p>							
成績評価基準	定期試験	70%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	概ね到達目標は達成できたが、電圧源と電流源の設計の部分にあまり時間をかけられなかった。							
反省点	オペアンプにおける位相補償の講義を詳しくやりすぎたため、後半は少し時間的余裕がなかった。前年度と比較して合格率が8ポイント改善したが、電子回路Ⅱの理解が不十分なまま、講義を受けている学生がおり、回路設計が必要となる基礎的な回路方程式や回路定数の設定など電気・電子回路全般の基礎力不足のフォローが不十分であった。							
来年度の計画	授業内容に関しては現状の削減予定はないが、講義内容を精査して理解度が深まるようにする。板書だけでなく、パワーポイントによる講義形式も併用して、講義全体の流れ・目標をより明確化し、わかりやすい授業となるよう努力する。							
授業評価アンケートに対するコメント	前年度から合格率は改善傾向が見られるが、まだまだ2割の学生が修得できていない状況。アンケートの結果から授業の理解度を図る項目において、結果が芳しくなかった。授業の内容に興味を引き出せていない状況にあり、結果的に授業の内容を理解できていない学生が多くなっている。学生の興味を引き出せるような講義になるように改善に努める。							
履修登録者数	60名	定期試験 受験者数	51名	合格者数	41名	合格率	80%	